

目指す学校像	花と緑と心が美しい学校 理想をめざして学ぶ学校 がんばる力のみなぎる学校 やさしい会話あふれる明るい学校
--------	--

重点目標	1 一人1台端末(タブレット型PC)を活用した「個別最適な学び」の実現 2 実践的な安全教育の実施と安心して相談できる相談体制の確立 3 Withコロナにおける学校行事の開催と、地域とともにある学校づくりの推進 4 教職員一人ひとりのキャリアに応じた成長とライフワークバランスのよい職場環境づくり
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価		
年度目標			年度評価				実施日 令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1 学力向上	<現状> ○R4の国や市の学習状況調査では、本校の正答率は全教科で国又は市の平均を上回った。 ○学習理解について、児童も実感している。>R4児童アンケート「学習がとてもよくできている」48.6%、「できている」45.9% ▼一方で、5.5%の児童が学習理解について否定的に回答している。(R4児童アンケート結果) ○一人1台端末の活用は進みつつある。(R4.12月小6調査 毎日活用57.1%) ▼タブレット型PCの修繕に時間を要するので、台数が不足している状態が続いている。全員が日常的に利用することは難しい。 <課題> ◎理解度の高い児童の能力をさらに伸ばすことができる余地があると考えられる。各教科等授業において、習熟度や課題別に適した課題設定や授業形態ができるようにする。 ◎学習意欲や基礎基本の力が十分でない児童が一部いる。 ◎情報モルを含めたICT活用能力を高めていく。	個別最適な学びをつくるための「タブレット型PCの利活用の促進」	①タブレット型PCを効果的に活用する授業改善のための教職員研修を行う。 ②「フロンティア教育授業」「情報モル教育」の指導計画を作成・実施し見直す。 ③健康に配慮したPC利用に関する保健指導の計画・実践・見直し ④使用可能なタブレット型PCの台数把握と新クラスへの配備を行う。(4月) ④教育のデジタル化に関する保護者への理解啓発(手紙配付、授業参観)	①エバンジェリストを中心とした月1回の研修を実施できたか。 ①児童が学年相応のデジタル教材を自由に扱えるようになったか。(7月までに) ②「プログラミング教育授業」「情報モル教育」の実施後すぐに見直したか。 ③保健指導の年間計画を見直し、計画的意図的に指導する。 ④手紙配付(4月:自宅PC利用について、5月:アカウント管理について、デジタル教材について、学校だよりほか)、年1度以上のPC利用の授業公開					
		理解度に関係なく個別最適な学びをつくるための「学習体制の整備」	・習熟度に応じた学びのための少人数指導体制(スクールアシスタントの計画的配置) ・理解度に関係なく学び合える協働的な授業を実践するための教職員研修 ・児童が主体的に活動できる授業を実践するための教職員研修	・児童アンケート「学習がとてもよくできている」が増加したか。また、否定的回答が減少したか。 ・校内外の「学びのポイント『じ・し・や・く』」の授業実践を全教員で共有する。					
		言語力・読解力向上のための読書活動の推進	・読書時間と経験を確保する。(毎週月曜は「朝読書」、毎日の家庭学習) ・児童図書委員会の活動を児童主体で行う。 ・保護者ボランティアと連携して環境を整備する。(良書コーナーの充実) ・保護者への啓発活動を行う。(児童と司書による図書館だより、親子読書、講演会の企画・開催)	・「朝読書」での児童の様子は集中できているか。 ・児童図書委員は主体的に活動できたか(各学期末の自己評価) ・学校図書館の校内移転に対応しながら、昨年度と同等の利用状況を確認できたか。(貸出冊数等)					
2 安心・安全	<現状> ▼新型コロナウイルス感染症は感染症法の位置付けが変更されたが、引き続き、感染症対策は必要である。 ▼校地内で工事が行われている。(R6年度まで) ▼異常気象や不審者情報等は毎年ある。 ○PTAや地域の協力をいただき、登下校の事故はない。 <課題> ◎児童が自身の安全を守るために主体的な行動ができるようにしたい。 ◎想定を超える災害が起り得る状況において、様々な防災教育が必要と考える。 ◎Withコロナの見えないストレスに対する児童の心のケアが大切である。	実践的な防災教育の実施	①交通安全(低学年歩行、3・4年生自転車)、災害(地震、火災、竜巻)、不審者について児童自身が思考する訓練を実施する。 ①1年生の引渡し訓練を実施する。来年度に向けて方法を見直す。 ②避難や防犯に必要な設備を整えとともに、不審者発見のための来校者声掛けを積極的に行う。	①各種訓練で児童の思考場面はあったか。また、各訓練の目標は達成できたか。 ②1月までにR6引渡し訓練計画が作成できたか。 ③各種訓練後に見直し・改善ができたか。 ③児童・教職員とも来校者への声掛けを積極的に行えたか。また、16:50までの施錠・20:30までの閉門ができたか。					
		安心できる居場所づくり	①所属感・自己有用感のもてる学級経営を行う。 ②SC等と連携した安心して話せる相談体制をつくる。(スマイルルネ、スマイル相談日、担任による相談週間、5・6年生心と生活のアンケート) ③校内委員会で情報を共有し、いじめ対策委員会で対策を検討する。	①児童アンケート ②相談実績(人数) ③校内委員会に関する教職員アンケートで、8割以上の職員が肯定的に回答したか。					
3 開かれた学校	<現状> ○学校運営協議会で「あいさつ運動」を熟識し、学校では児童会が中心になって「あいさつの花運動」に取り組んだ。ポスター作成により地域つながり、安全面でもプラスになった。 ○育成会主催「ふれあいまつり」は地域・保護者(PTA)・学校の協働で行えた。 ▼保護者アンケートでは「学校の取組が分かりにくい」という意見が複数あった。 <課題> ◎学校運営協議会をいっそう充実させ、地域とともにある学校づくりを進めていく。 ◎学校行事や各種おたより・学校Webページを活用し、積極的に教育活動を公開していく。 ◎学年費(共用教材費)について、外部監査を行う	Withコロナにおける学校行事の適切な開催と公開	①児童の安全を第一に感染対策を行い、その上で行事の目標を達成させる。(音楽会、運動会、授業参観、校内作品展、入卒式、朝会等) ②昨年度からの「あいさつの花」運動を児童会が行う。 ③65周年を記念する行事を実施し、祝う気持ちを児童・教職員・保護者・地域が共有する。	①各種行事の目標は達成できたか。また、感染症の拡大はなかったか。 ①保護者アンケート「連携」で、肯定的な回答が95%以上あったか。(R4:93.1%) ②全校児童が主体的に取り組んだか。 ③記念行事を行えたか。(行事後の参加者の声による評価)					
		学校・保護者・地域をつなげる「学校運営協議会の充実」	①学校運営協議会を年3回開催し、充実した熟識を行い、毎回、1週間以内に議事録を学校Webページで公開する。 ②「針ヶ谷小コミュニティスクール成長プラン」を策定する。 ③熟識を充実させるため、会議の1週間	①計画どおりに実施できたか。 ②「針ヶ谷小コミュニティスクール成長プラン」が策定できたか。 ③充実した熟識ができたか。(委員によ					

	<p>ためのボランティアを募集する。 ◎本年度(R5)は開校 65 周年にあたり、地域に感謝の気持ちを伝えたい。</p>		前には委員に資料を配付する。	る評価)				
4 教 職 員 の 資 質 向 上	<p>&lt;現状&gt; ○5・6年生で教科担任制を行っている。(R4～) ○R4年4月～12月までの「勤務時間外の在校時間」は、一人当たり月44.8時間であった。 ▼授業力、在校時間、共に教職員間で差がある。 &lt;課題&gt; ◎教育職員免許法の一部改正を受け、市として「校長との対話による受講奨励」が始まった(R5～)。自身のキャリアに応じた研修を自ら設定できるようにする。 ◎「個別最適な学び」を支え、働き方改革にも寄与するICTの活用は、教職員にいつそう求められている。 ◎全ての教職員の勤務時間外在校時間が、月45時間、年間360時間を超えないようにしたい。</p>	「学び続ける教師」を具現化する研修体制の確立	<p>①年次研修(法定研修)をベースにし、キャリアの異なる教員が学び合える場を設ける。 ・初任者研究授業 3回×2人 ・初任者研修示範授業 1人×10教科 ・校内研修研究授業 1人×2教科 ・指導課訪問研究授業 1人×5教科 ・教育実習生指導 1人 ・ほか校内伝達講習 ②ICTの活用を含めた最新の教育情報を学べる場を設ける。(エバンジェリスト又はICT支援員による情報伝達・研修、校長通信等) ③エビデンスに基づいた指導ができるよう、国・市の学習状況調査の分析研修を行う。</p>	<p>①授業を担当する教員26人が、モニター又はモニターとして学べたか。 ②エバンジェリスト・ICT支援員等による情報伝達又は研修を月1回以上行えたか。 ②校長通信を月1回以上発行できたか。 ③国及び市の学習状況調査の分析研修を行えたか。</p>				
		働き方改革	<p>①運営委員会の資料をデジタルで共有し、修正・供覧の時間を短縮する。 ②月2回の残業時間を徹底する。 ③学校行事をいつそう精選する。</p>	<p>・4月～12月までの「勤務時間外の在校時間」が一人当たり月45時間以内になったか。教職員で差はないか。</p>				